

## 日米2国間 FTA を締結せよ

畠山 襄 *Noboru Hatakeyama*

(一財) 国際貿易投資研究所 理事長

一陣の風が吹き抜けたかのような印象を残して、米国トランプ大統領とその一行が北東アジア3カ国を旅した。日本に続く訪問国は韓国であった。同国の文在寅大統領とトランプ大統領の間では米韓 FTA の見直しが決定されたが、日米間では公表されている限り、FTA は2国間も多国間も議論されなかった。それにもかかわらず、日本国内では有力説が流れている。どういふ有力説か？ それは次のような説だ。

TPP から離脱した米国は何故、2国間協定を日本とやりたがるのか。

筆者が問う。「日米 FTA を行うと米国が考えているのは、その中で米国が圧倒的な力を発揮しようと思っているからだ。」

筆者、また問う。「日本は既に ASEAN の7カ国と2国間 FTA を結び発効しているが、どうする？」

知恵者、答えて曰く、「既存のものは別だ。」

筆者、さらに問う。「既存のモノを別とする論理如何。」

知恵者、笑って答えず。

筆者、さらに追及する。「知恵者の説によると、それが描く FTA は、ASEAN と中国が結んだ多国間 FTA とそっくりだね。ご記憶のとおり、日本は FTA 第1号をシンガポールとの2国間協定から始めたが、これに対して、FTA の数で後れを取った中国は、一網打尽と言わんばかりに ASEAN と一括協定を結んだ。ここまできると誰が本物の知恵者かよく分からないな。」

話しは変わって、アジア太平洋地域の FTA についていえば、豪州とカナ

---

ダも有力なメンバーだ。この2カ国は同じ英連邦国だが、必ずしも仲が良くない。現に APEC 創設の時には、豪州がカナダを排除しようとした。28年の歳月を経て、それを根にもったカナダが茶々を入れようとしたのが、今回のカナダの突然の態度豹変であったのではないかと筆者はみている。

そういう上述のような政治的な要素も絡むので、FTA というのは、政治半分、経済半分のゲームである。まして、この日米 FTA を考えると、日本が米国を外すという論理はない。